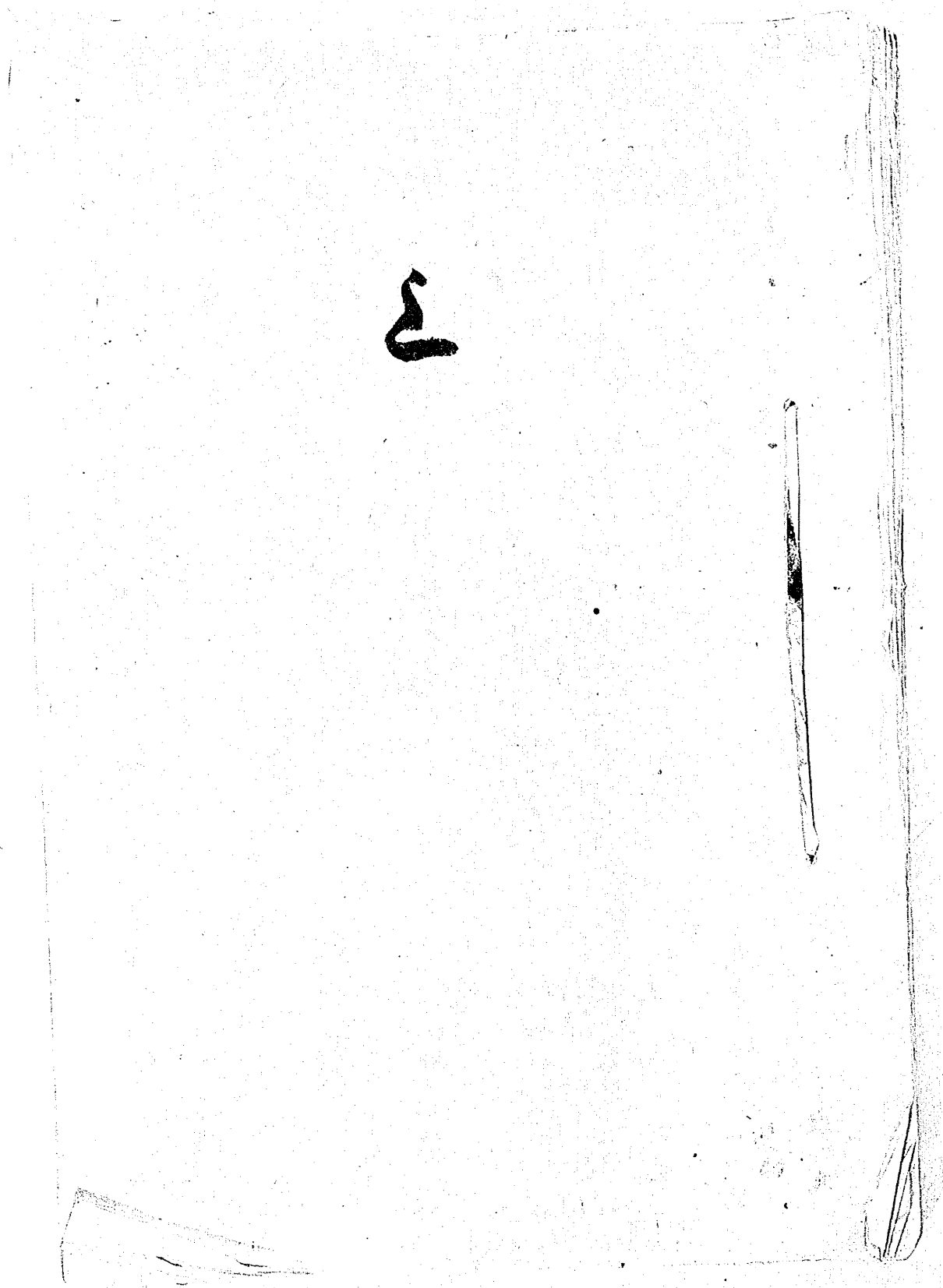


摘要	年代	内容	表題
<p>京都御店 御元締衆中様 御支配衆中様</p> <p>江戸店組頭役</p> <p>小林藤七 吉村佐兵衛 富田和七 吉田弥右衛門</p>	<p>文久二年八月</p> <p>(一八六二)</p> <p>数量</p>	<p>御家之改革願</p>	<p>上</p>

乙

济学部

80  
699  
115



2

名忠公書附卷古

一 皇朝初楊冲在從性在從師傳弟  
波高涉之垂長久涉如業本為



27626

冲先祖掃之運德與朝考冲靈氣誠虛  
奉祈物如天保序冲政章為其信海世同信  
无引獲出成之秋行又其凡似化已辛美年以丹其  
之履之逐地奇中實也力何南

後北朝の足利朝に重積之由辰之後高  
河原より名くと仕入向は辰化考く皆歸し  
定舞なく新帳全括と延勘之に大挫可く  
新内門の地方日会去獨く迄郡の地近  
今も後難也然中 河越家権方と云ん年  
中是れを建後と武通の侍也皆云ん  
信物等と云者是又市中法高貴云ん

主流を濁らざる必疑路の折柄其後未年中  
ヨリ 横原若易五郎の後法也一旦不形于融  
身より言物手の時節世に一人氣流之を  
守ふ能とくまゝに其後若く物に氣合  
後之河原侍言の用も古来の風俗に依る  
意の今年に而進ふ如く法を解安と云  
災風吹火冠難復形に秋金産をいふ



岩屋へはりし年を地りたり  
陽花元平破羅へはりし年を地りたり  
虚名拓りし年を元平合方へはりし年  
有長羅西住主重く羅西住主のはりし年  
法よりし年と格式より志印は所記  
お破る不拓りし年を地りし年を地りし年  
之は方地拓りし年を地りし年を地りし年

長方海軍新儀へはりし年を地りし年  
信有し年を地りし年を地りし年  
はりし年を地りし年を地りし年  
申す通十一年信有し年を地りし年  
六ヶ浦の者へはりし年を地りし年  
長服信有し年を地りし年を地りし年  
主信有し年を地りし年を地りし年

任令之事何能物也... 不顧前事... 既以度候

冲之儀樣... 廣之...

平月... 石橋... 護心... 誰有...

小林 茂七

江戶初落字

吉村 依之助 下

富田 初七 下

吉岡 清常 〇

江戶初落字

文久三年八月 江戶初落字

永叔 淨店

沖 久 淨店 淨店 標

沖 交 配 淨店 標



